

東京都羽村市

愛情ギュッとず〜っとはむら —東京で子育てしやすいまち—

企画総務部
シティプロモーション推進課

皆さんは「東京で子育てしやすいまち」をご存知でしょうか。

東京の都心部から西に約45kmにあり、電車1本で45分程度。行政面積は9.90 km²と全国の市の中でも7番目に小さな東京都羽村市は、都市基盤整備と企業誘致を積極的に進め、区画整理された閑静な街並みの住宅都市と製造業を中心とする企業が集積する工業都市が調和した、職住近接の近代都市として発展してきました。市民サービスの向上を図るため、市営動物公園、室内温水プール、生涯学習施設、アスレチックやプラネタリウムなどを備えた児童館など、特色ある公共施設を建設し、また、身近にある自然環境を活かした子ども体験事業や観光事業等に取り組み、ハード事業とソフト事業の両面から充実を図ってきたため、街の魅力は多岐にわたります。

しかし、街の発展とともに増加してきた人口も、平成22年の57,772人をピークに減少傾向にあり、少子高齢化も進展していることから、平成27年9月に策定した「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」により、市の認知度の向上を図り、若い世代の定住を促進する新たな手法として、平成28年度からシティプロモーションに取り組んでいます。

シティプロモーションを推進する上で、まず、羽村市自体をブランディングすることとし、市民にインタビューやアンケート、ワークショップ等を行い、暮らしや子育てする中で感じている中心的価値は、コンパクトな街の中に「人の温かさ」「都会の便利さ」「自然の豊かさ」が備わっていることであり、これにより東京にある「子育てしやすいまち」と評価していることが分かりました。これを羽村市のブランドとし、説明し発信するブランドメッセージとロゴマークを策定しました。メインメッセージは「愛情ギュッとず〜っとはむら」です。

愛情\ギュッ/と
ず〜っとはむら



羽村市のシティプロモーションは、まちや地域資源をもっとよくしたいと市民が活動するシビックプライドを高め、これを戦略的・継続的に発信していくことで認知度の向上を図り、ブランド化を推進することから、特に、市民から多くの肯定的な意見が寄せられた「人の温かさ」を推進する事業の一つとして、平成29年度から新たに取り組んでいる「羽っぴー（はっぴー）」について紹介します。

平成29年4月に、子ども家庭部内に、2名の保健師が利用者支援事業の母子保健型を実施する「子育て相談課相談係」を新設しました。既存の「子ども家庭支援センター」と合わせて、「子育て世代包括支援センター」と位置づけ、羽村市で育つ子どもたちがみんな幸せ（ハッピー）になるように、愛称を「羽（は）っぴー」としました。

母子手帳交付時の面接を、ご家族との関わりのスタートとし、子育て世代の安心感を高めるために様々な相談を受け、寄り添い型の支援を開始しています。



この子育て世代に寄り添った相談体制が「人の温かさ」として特に評価され、「子育てしやすいまち」の価値の一つとなっています。

これら「東京で子育てしやすいまち」羽村市の特徴的な施策や、市民記者が取材した記事、市民がインスタグラムで発信した写真など、羽村市の暮らしや子育てに関する魅力は、「東京都羽村市公式PRサイト『愛情ギュッとず〜っとはむら』（「愛情はむら」で検索）」で公開していますので、ぜひ、ご覧ください。

【問い合わせ】

企画総務部シティプロモーション推進課
☎042-555-1111 内線342